

# 福岡県社会福祉審議会資料

## 【報告事項】

障害者の所得向上に向けた取組について

福祉労働部障害者福祉課

# 障害者の所得向上に向けた取組について

福岡県福祉労働部障害者福祉課

## 1 趣旨

- 県内にある約250の授産施設では、障害者の自立に必要な訓練や働く場を提供している。
- しかしながら、授産施設の所得水準は、月額11,571円であり、障害年金と合わせても、生活保護水準に届かず、地域で自立して生活することが困難。  
(障害年金1級 82,510円 障害年金2級 66,008円)
- 県では、障害者の皆さんが心を込めてつくった製品を「まごころ製品」と名付け、販売促進に取組み、所得の向上を図っている。

\*「まごころ製品」とは  
授産施設がつくる製品や提供しているサービス  
(例)パン・菓子・野菜・弁当・エプロン・木工品・清掃・印刷・部品加工等

## 2 これまでの取組みと成果

- OH19 ・4グループでの共同開発を開始【農業(焼酎)、菓子、パン、縫製品】
- OH20 ・「まごころ製品見本市」開催(天神中央公園) 35施設
- OH21 ・「まごころ製品キャンペーン」開催(イオンモール筑紫野)14施設
- OH22 ・「まごころ製品キャンペーン」開催(イオンモール筑紫野)14施設

グループ名	共同開発製品
農業	芋焼酎「自立」
菓子	米粉を使用した焼き菓子
パン	県産小麦を使用した「まほろばパン」
縫製	さをり織りを取り入れた縫製品

### <芋焼酎「自立」>

- 知事自らによる講演会・各種催しでのPR
- 「ふくおか県だより」等県広報誌・新聞各紙などでのPR
- 各施設の販路開拓による販売(施設店頭、町内催事、飲食店、インターネット)
- イベントの活用による販売(どんたく、イオンモール筑紫野)



これらの取組みにより、22年3月出荷分の8,000本を6ヶ月で完売

## 3 課題

- 焼酎「自立」は一定の成果を見たものの、「まごころ製品」全体としては認知度が低い
- 継続的で安定した販路が少ない
- 一般市場で競争できる製品と営業力がない



「まごころ製品」の更なる売上げ拡大が必要

## 4 事業内容

### 1 高齢者の能力を活用した「まごころ製品」の売上げ拡大

#### 「まほろばパン」や「米粉菓子」の品質向上とブランド化への取組み

- 元職人10人を「まほろばパン」や「米粉菓子」に取組む10施設に派遣
- ・「まほろばパン」や「米粉菓子」に菓子パンや米粉ドーナツなどの新製品を加え、製品構成を充実

#### 「まごころ製品」全体の販路開拓

- 元営業職20人を雇用し、販路開拓に従事
- ・商店街、レストラン、道の駅、物産館などの新規販路開拓
- ・企業や団体などからのサービス受注(清掃や部品加工等)の新規販路開拓
- ・製品の需給調整や出荷品のマージン減免などの交渉

### 2 販売イベントの開催

- 県庁各部が開催する県イベントへの出店
- 県庁地下売店、各総合庁舎で定期的に販売
- 大型商業施設で定期的に販売

### 3 「まごころ製品ネットワーク」の構築

共同開発製品(4製品)ごとに取組施設をネットワーク化し、以下の事項を実施

- 同一ブランドの確立
  - ・販売価格の統一、収益率の向上、品質の維持・管理
- 経営体質の改善
  - ・専門家による講演や好事例等の紹介を内容とする研修会の実施